

## ■ ホームページのご案内

当社ホームページでは、会社情報やIR情報、サステナビリティなどを掲載しております。  
パソコンやスマートフォンからご覧ください。



<https://www.cosmospc.co.jp/>



IR情報もご覧ください。

公式アプリでは、お得なクーポンを配信しています。

## ■ 株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月開催
基準日	定時株主総会 毎年5月31日 中間配当 毎年11月30日 期末配当 毎年5月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
公告方法	電子公告 <a href="https://www.cosmospc.co.jp/koukoku.html">https://www.cosmospc.co.jp/koukoku.html</a>
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
単元株式数	100株
証券コード	3349
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場

### 《ご注意》

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（みずほ信託銀行株式会社）ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 株券電子化前に「ほぶり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本店にお申出ください。

株式会社 コスモス薬品

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目10番1号  
TEL.092(433)0660 FAX.092(433)0669

# COSMOS

## INTEGRATED REPORT 2024

2023.6.1 » 2024.5.31 統合報告書



# 「高品質な商品をより低価格で」 日常生活の必需品をいつでも安心して買うことができる店づくりで、 皆様に「豊かな生活」をお届けします。

## 2024年5月期の業績についてお教えください。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、世界的な情勢不安とインフレが続く中で、日本国内でも様々な商品やサービスの価格が上昇しました。特に家計に直結する生活必需品の価格など、生活コストが上昇していることで、消費者の節約志向はより一層高まっております。

このような状況だからこそ、当社グループは更なるローコストオペレーションを推進すると同時に、意図的に利益率を引き下げても消費者にとって「安くて、近くて、便利なドラッグストア」となれるよう力を注いでまいりました。

出店戦略につきましては、自社競合による一時的な収益性の低下も厭わず、次々と新規出店を行いました。同時に、新商勢圏への店舗網拡大を図ってまいりました。

## 今後の戦略をお聞かせください。

日本国内の人口が減少に転じたとは言え、まだまだ店舗網拡大による成長が可能と考えております。当社のビジネスモデルは日常生活の消耗品を主とした商品構成とし、来店頻度と買上点数を同時に追求しているため、商圈を小さく設定することができます。

また、流通小売業は、比較的大きな商圈を設定して店舗を設置する企業が多い中で、当社では商圈人口1万人をターゲットとした店舗展開を行っております。加えて、自社競合を厭わずに自ら商圈を分割することで、出店候補地に窮することなく多店舗展開が可能です。今後このビジネスモデルの精度をさらに高めながら、消耗品の販売市場において限定商圈における高密度占有率の獲得に力を注いでまいります。

これまで九州・中国・四国地区を中心に出店し、高い販売シェアを獲得してまいりました。同地区は予定していた最大店舗数に近づいてきましたが、前

新規出店につきましては、関東地区に50店舗、中部地区に27店舗、関西地区に15店舗、中国地区に10店舗、四国地区に8店舗、九州地区に29店舗、合計139店舗を開設しました。また、スクラップ&ビルドにより7店舗を閉鎖いたしました。これにより、当連結会計年度末の店舗数は1,490店舗となりました。

以上の結果、当連結会計年度業績は、連結売上高964,989百万円（前年同期比16.6%増）、連結営業利益31,501百万円（前年同期比4.6%増）、連結経常利益34,299百万円（前年同期比3.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益24,454百万円（前年同期比2.8%増）となりました。

述の方針のもとまだまだ出店できると考えております。また、関西・中部・関東地区への出店は緒に付いたばかりで、今後積極的に新規店舗を出店してまいります。特に関東地区は西日本に比べて人口密度が高く平均所得も高いため、当社の今後の成長において有望な市場と考えております。

なお、高速出店・高成長を維持・継続するためには、店舗運営のマネジメントレベルの向上が不可欠と考えます。これを実現するために、①人材教育、②マニュアルの整備、③コンピュータシステムの充実、この3つを重要課題と認識し組織改革に取り組んでまいります。

チェーンストアは、規模の拡大によって段階的な組織の再構築・情報システムの見直しが必要と考えます。今後も持続的な成長を実現するために、将来にわたってその時点の企業規模よりも常に先を見据えた組織・システムの構築を進めてまいります。

## CSR および ESG への取り組みについて、基本的考え方をお教えください。

私たちコスモス薬品は、「コスモス薬品の店があることで、その地域の暮らしが豊かになることを目指します」を経営理念として掲げております。

この中の「豊かな暮らし」とは、「日常生活に必要なものがストレスなく入手できる便利で快適な生活」であると定義しております。そして、生活必需品を家の近くで・便利に・しかも安く販売することで、地域の皆様に「豊かな暮らし」を提供したいと考えております。

その上で我々の運営する店舗が、電気や水道のように「地域の生活に欠かせない店」となり、「その地域の社会的インフラ」「その地域のライフライン」として機能することで社会に貢献してまいります。またドラッグストア事業を通して、企業としての社会的責任を果たすことはもちろんのこと、事業活動を行う上での環境負荷低減、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けても貢献してまいります。

## 2025年5月期の見通しをお聞かせください。

2025年5月期の見通しにつきましては、インフレによる様々なモノの価格上昇が続くと思われ、更なる消費マインドの冷え込みが予想されます。このような時だからこそ、「高品質な商品をより低価格で」販売できるように更なる努力を続けてまいります。

また、2025年5月期の新規出店につきましては、自社競合を厭わないドミナント出店を基本として、九州地区・中国地区・四国地区に引き続き出店を行うと同時に、新商勢圏である関東地区・中部地区・関西地区への出店を拡大してまいります。

以上により、2025年5月期の連結業績予想は、売上高1兆370億円、営業利益316億円、経常利益344億円、親会社株主に帰属する当期純利益245億円を見込んでおります。



株式会社コスモス薬品 代表取締役社長  
横山 英昭

コスモス薬品の経営戦略

小商圏型メガドラッグストア

- 小商圏で成り立つ独自のビジネスモデル「小商圏型メガドラッグストア」を構築。
- 大型店でありながら、商圏人口1万人といった小商圏がターゲット。
- 競争力のあるメガドラッグストアで自ら商圏を分割しながら、多店舗展開を推進。



EDLP (エブリデー・ロー・プライス)

近くて便利/毎日安い/買いやすい



基本戦略

(詳細は4ページ)

高密度ドミナント

地域に根づく経営基盤を確立

販売戦略

(詳細は5ページ)

出店戦略

(詳細は6ページ)



- 日替わり特価やポイントカードなどを廃止し、「毎日が低価格」を実践。
- プライベートブランド【ON365】【StandarDay】【おいしい惣菜】【アンテリージェEX】などを展開。
- 笑顔の接客で、顧客満足度指数調査「ドラッグストア業界」で14年連続第1位の評価獲得。(2011~2024年度。サービス産業生産性協会発表)

- 大型店による高密度の店舗網を展開し、その地域での圧倒的シェアを獲得。
- 同一エリアへの集中出店により、様々なコストの低減化を実現。
- インクが染み出すように出店エリアを広げ、強力な店舗網を全国に拡大。

基本戦略

来店頻度と買上点数を同時に追求し、小商圏で成り立つビジネスモデル「小商圏型メガドラッグストア」。



小売業の常識を覆す独自のビジネスモデル

小売業の常識は、小さな商圏には小さな店舗、広域をターゲットにした大商圏には大型店舗。しかし、当社はこの常識にとらわれず、大型店でありながら広域から集客を見込むのではなく、来店頻度を高めることで商圏人口の倍増を狙っています。また、豊富な品揃えで一度にたくさんのお買い物ができる店を追求しています。これにより、来店頻度と買上点数を同時に高め、小商圏で成り立つビジネスモデルとしたのです。

また、小商圏をターゲットとしているため、たくさんの店舗を出店することが可能です。競争力のあるメガドラッグストアで、自ら商圏を分割しながら多店舗展開する。これが、コスモス薬品が考える「小商圏型メガドラッグストア」という新しいビジネスモデルです。

コスモス薬品のお店は「超大型コンビニ」

当社が展開するドラッグストアを、あえて他の業態で表現するならば、「超大型コンビニ」。日常生活の必需品が一箇所で何でも買えるワンストップショッピング、短時間で買い物を済ませることができるショートタイムショッピング、この2つの両立を目指しました。

近くて、便利で、しかも安い。深夜の営業は行っていませんが、コンビニエンスストアの弱点である「豊富な品揃え」と「低価格」を実現し、新しい便利な買い物の拠点としてご利用いただくことができます。



- 1973年 2月 宮崎県延岡市に宇野回天堂薬局を創業
- 1983年 12月 宮崎県延岡市に有限会社コスモス薬品を設立
- 1991年 4月 有限会社コスモス薬品を株式会社コスモス薬品に組織変更
- 2000年 4月 宮崎県宮崎市に本社を移転し、本部機能を統合
- 2004年 3月 九州地区外への初の出店となる大内店(山口県)を開店
- 2004年 11月 東京証券取引所マザーズ市場に上場
- 2005年 4月 本社機能を福岡市博多区に移転
- 2005年 11月 四国地区への初の出店となる竹原店(愛媛県)を開店
- 2006年 5月 東京証券取引所市場第一部に上場
- 2010年 5月 関西地区への初の出店となる東二見店(兵庫県)を開店
- 2015年 11月 中部地区への初の出店となる東日野店(三重県)を開店
- 2019年 4月 関東地区への初の出店となる広尾駅店(東京都)を開店
- 2022年 4月 東京証券取引所 プライム市場へ移行

毎日ご来店いただくリピート客を大切に考え、  
“毎日が低価格 (Everyday Low Price)” を基本としています。



### “毎日が低価格！”がつくるお客様との信頼関係

当社は、日替わりの特売やタイムサービス、ポイントカード等の施策を行っていません。忙しい中でも何度も繰り返しご来店いただくお客様を大切に考え、“毎日が低価格=Everyday Low Price”を基本としています。

当社創業の地である九州は、全国でも有数の価格激戦区です。そこで学びとったことは、お客様との信頼関係が何よりも大事だということです。あの手この手の販売促進策で「おとり販売」を行うのではなく、毎日安い価格を提供してこそ、お客様からの「信頼」を勝ち取ることができると考えています。

また、近年普及が進んでいるキャッシュレス決済についても、ほとんどの店舗は取り扱っていません。キャッシュレス決済会社に高い手数料を支払うよりも、お客様により安くお買い物を行っていただきたいと思っています。

### 品質・価格の両面を追求したプライベートブランド

当社では、常に現状に満足することなく、信頼できるメーカーと共同で、低価格かつ品質の優れたプライベートブランドの開発を進めています。現在、代表的なブランドとして【ON365 (オン・サン・ロク・ゴ)】、【StandarDay (スタンダーデイ)】、【おいしい惣菜】、【アンテリージェEX】を展開しており、いずれもお客様に自信を持ってオススメできる商品群です。これらのブランドが、「信頼できる商品」としてお客様に広く認知されるよう、これからも努力を続けてまいります。



“限定商圏での高シェア戦略”を拡大推進。  
そして、インクが染み出すように商勢圏の拡大を目指します。



佐賀県唐津市における高密度店舗網の例

### “限定商圏での高シェア戦略”の推進

当社はこれまで、自社競争を厭わず、高密度の店舗網を築いてきました。非常識とも思える密度で大型店を出店するのは、その地域で圧倒的なシェアを獲得するためです。日本全国に出店しなくても、限定商圏で圧倒的強者となれば、広く薄く全国に展開するナショナルチェーンよりも商取引で有利な条件を獲得することが可能と考えます。

また、集中出店により同一エリアに多数店舗が存在することで、効率的な商品配送や、1店舗当たりの販売促進コストの低減など、様々なコストの抑制が可能となります。これにより、安定的な収益基盤の構築を図り、更なる成長を目指しています。

### 九州を埋め尽くし、そして全国へ！

ディスカウントストア・ドラッグストア・食品スーパー等の競合ひしめく、“日本でも有数の価格競争激戦区”と言われる九州地区において、当社が売上高・利益高ともに最大規模の企業へと成長できたことは、大きな自信につながっています。当社は2024年5月末現在で同地区に626店舗を展開していますが、今後もさらに出店を続け、九州を隙間なく埋め尽くしたいと考えています。

なお、当社のビジネスモデルは、九州に限らず日本全国どこでも通用するモデルであると考えています。今後は新商勢圏である関東・中部・関西地区への出店を加速し、将来的には日本全国をコスモス商品の店舗で埋め尽くしていきたいと考えています。



千渡店 (栃木県)

## 環境への取り組み

気候変動や海洋汚染をはじめとした環境問題は、日本国内にとどまらず地球規模で深刻化しています。これらの課題を我々だけで解決することはできませんが、我々の活動が持続可能な社会の実現の一助となれるよう当社グループ全体で取り組んでまいります。

### 森林保護活動をスタート

近年、異常気象による河川の氾濫等の災害が毎年のように発生し、改めて治山治水の重要性が見直されています。そのような中で、当社の創業の地である延岡市を含む宮崎県の自治体と「森林保護活動」に取り組んでおります。具体的には、2021年5月には7自治体に、2022年以降は10自治体に寄付を行い、それぞれの自治体と事業成果の共有と今後の活動への課題の協議を重ねています。

林業従事者の減少が続く中で、豊かな日本の森林をどう維持していくのか。当社がこのような活動を続けることで、少しでもこの課題の解決に近づくことを願っております。

自治体名	寄付金額	自治体名	寄付金額
宮崎県	20,000千円	諸塚村	10,953千円
延岡市	67,210千円	椎葉村	21,143千円
日向市	11,664千円	高千穂町	11,237千円
門川町	9,578千円	日之影町	16,166千円
美郷町	16,782千円	五ヶ瀬町	15,266千円
2024年度 寄付合計		2億円	

### 1. 事業報告書 林業担い手育成推進事業

**事業概要** 森林の維持管理や伐採および再造林を行う林業の担い手不足が喫緊の課題であることから、新規林業従事者の免許取得や就業等を支援することで、林業担い手を確保し林業の振興を図るとともに、森林の適正な管理に努めています。

**事業の成果** 林業機械の操作に必要な技能講習や免許取得の支援、3年以内に林業に就業した従事者への所得支援、林業大学の研修費を支援し、林業担い手の確保を図りました。



● 研修の様子

### 2. 事業報告書 森林整備事業

**事業概要** 山地災害の防止や水源の涵養、温室効果ガス吸収機能など、森林の持つ公益的機能の充実を図るため、立地条件に応じた適地適木の植林や計画的な除伐・間伐を実施、森林の健全な成長を促し、災害に強い森林づくりを図ります。

**事業の成果** 森林資源の造成や保育管理が適正に行われたことで、郷土の保全、水資源涵養、自然環境の保全が促進され、森林の持つ公益的機能の維持、増進が図られました。



● 植林の様子

### 3. 事業報告書 林道維持管理事業

**事業概要** 森林整備を行う上で重要な基盤施設である林道を補修し、植林や除間伐等の推進を図り、森林の再生等、森林整備の促進に努めます。

**事業の成果** 植林等の森林整備の推進を図るため、老朽化や破損した林道施設の改修、改良を行い森林の再生など豊かな森林づくりが図られました。



● 林道整備の様子

### CO<sub>2</sub>の排出削減

流通小売業において、「物流を制する者が小売業を制する」と言われるほど、物流の効率化が経営戦略上の重要な課題です。この物流の効率化を成し遂げるための要諦は、狭いエリアに店舗を密集させ配送効率を高めることです。当社は、「自社競争を厭わない高密度のドミナント出店（地域を絞った集中出店）」を出店戦略の基本にしており、大型店を非常識なほど高密度で出店しています。これにより、配送効率を高めると同時に商品配送に伴うCO<sub>2</sub>削減にも取り組んでいます。

なお、当社のCO<sub>2</sub>排出削減への取り組みの一例として、商品の仕分けや配送に使用する物流資材としてリサイクル材を用いた台車を導入いたしました。この台車には、ポストコンシューマー材（消費者消費済みプラスチック）を用いており、当社が廃棄するオリコンや台車と同等量のリサイクル材を使用しています。これにより、CO<sub>2</sub>の排出低減ならびに廃棄物の削減につながっております。2023年9月より順次使用を開始し、2024年5月末まで19,630台を導入し、合計53,982kg-CO<sub>2</sub>e（杉の木約3,855本分の年間CO<sub>2</sub>吸収量）の削減を実現いたしました。



### バイオマス高配合のレジ袋採用および使用率の抑制

2020年7月にバイオマス配合比率25%未満のレジ袋有料化が法制化されて以来、当社グループ全店ではバイオマス配合比率最大90%のレジ袋に切り替えを行いました。お客様の利便性を考えると、基準を満たすレジ袋を無料で配布することも選択肢として考えられます。しかし、あえてお客様にレジ袋代をご負担いただくことで、使用率抑制を目指しています。実際、レジ袋を無料配布していた当時に比べて、使用量は大幅に削減されています。今後も、お客様のご協力を得ながらプラスチックゴミの削減に努めてまいります。



### 食品ロスの削減 ～ てまえどり活動

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている食品（食品ロス）が、年間約570万トン発生しているとも言われています。これは、食品を取り扱う小売業にとって目をそらすことのできない喫緊の課題となっています。当社では、「食品ロス」を減らすための取り組みとして、農林水産省、環境省、消費者庁によって推進されている「てまえどり」の活動を実施しています。

「てまえどり」とは、購入後すぐ食べる場合は、商品棚の手前にある販売期限の短い商品でも気にせず選ぶ購買行動です。この「てまえどり」を促進するPOPを商品棚に設置することで、お客様に手前に置いている商品から選んでご購入いただき、少しでも、食品ロスの削減につながるよう取り組んでいます。



## 社会の一員としての活動

接客業を営む当社は、顧客満足度の維持・向上に全力で取り組んでいます。高い顧客満足度は、高い従業員満足度があってはじめて達成できるものと考え、働きやすい職場環境の整備を進めています。様々なハラスメントを許さない規程の整備や運用の徹底、明るく自由闊達ながらも規律のある社風の形成、女性の活躍や障がい者雇用の促進などにも注力しています。

また、従業員はもちろんのこと、地域の皆様の健康増進にも力を入れています。本業であるドラッグストアは「まちの無料健康相談所」という認識のもと、店舗にご来店いただくお客様が健康で健やかに暮らせるための情報提供を積極的に行っています。そのためには、従業員が豊富な専門知識を有することが重要であり、各種研修制度を設けています。

### 顧客満足度調査 14年連続第1位を獲得

	ドラッグストア			7企業・ブランド		
	顧客期待	知覚品質	知覚価値	顧客満足	推奨意向	ロイヤルティ
1	70.7 ドラッグストア コスモス	73.1 ドラッグストア コスモス	75.1 ドラッグストア コスモス	76.4 ドラッグストア コスモス	70.5 ドラッグストア コスモス	72.7 ドラッグストア コスモス
2	A社	A社	D社	71.3 A社	A社	D社
3	B社	C社	A社	70.9 D社	D社	A社
4	C社 D社	B社	C社	70.0 C社	C社	B社

当社は、公益財団法人日本生産性本部・サービス産業生産性協議会が発表する調査において、当社が調査対象となって以来、2024年度までドラッグストア部門で14年連続日本一の評価をいただいています。本調査は、公的機関による公平かつ大規模な顧客満足度調査であり、14年連続でドラッグストア業界のトップを守り続けていることを誇りに感じております。

● 2024年7月30日公益財団法人日本生産性本部・サービス産業生産性協議会が発表したJCSI（日本版顧客満足度指数）調査結果

### 従業員および取引先への満足度調査を継続的に実施

当社では、毎年退職者約500名に対して「退職者アンケート」を実施しています。当社は、パートナースタッフやアルバイトスタッフまで業務改善提案がしやすい職場づくりを目指していますが、1000店を超える店舗で完全な形をつくるのはなかなか難しい課題です。そのような中で、現役の従業員ではなかなか言えない本音を伺い知ることができる本アンケートを、働きやすい職場環境づくりに活用しています。

また、ベンダーやメーカーなどのお取引先に対しても、年に1度、当社との取引内容に関するアンケートを実施しています。お取引先との取引関係は多岐にわたり、時には厳しい交渉を行うような局面もございます。しかし、こうしたアンケートを通して忌憚のないご意見を伺うことで、当社のステークホルダーであるお取引先との良好な信頼関係を構築できると考えております。

2024年5月期 従業員・取引先 満足度アンケート結果			
	発送数	有効回答率	満足度
従業員	512	56.3%	55.2%
取引先	227	83.7%	87.4%

### 女性の更なる活躍を推進

ドラッグストアという事業特性から、ご来店いただくお客様・従業員の両方とも、圧倒的に女性の比率が高くなっています。よって、店舗運営において女性の視点は非常に重要です。ただ、ドラッグストア企業として成長を加速し始めたのが2000年以降で、まだ部長職以上の職務を担う女性はいません。しかし、性別を問わず本人のやる気と実力次第でより重要なポストを担ってもらう人事制度を設けており、女性管理職も徐々に増加しております。

2024年5月末現在 従業員数			
	男性	女性	合計
全従業員	7,931人	44,410人	52,341人
正社員	3,629人	1,883人	5,512人
指導的立場の管理者	1,615人	233人	1,848人

## ガバナンスへの取り組み

当社では、企業価値を将来にわたって高めていくには、コーポレート・ガバナンスの確立が不可欠であると考えています。特に、当社を取り巻くステークホルダー（株主・債権者・従業員等）との関係の中で、経営チェックをいかに有効に機能させていくかが重要であると認識しています。そのため、以下の方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの確立を目指してまいります。

1. 社内外における経営環境の変化に対して迅速な意思決定ができるように、少数精鋭のマネジメント体制、かつ、風通しのよいフラットな組織を維持してまいります。
2. 企業に求められる透明性や公平性等、コンプライアンスに関する手当てを積極的に実施していくとともに、トップマネジメントに対する経営チェック体制の充実にも努めてまいります。
3. 当社の健全な経営に対する社会的な信頼を得るため、お客様をはじめ、株主、債権者、従業員等のステークホルダーとの円滑な関係を構築し、経営情報の適時・適切な開示に努めてまいります。

### ガバナンス体制

当社は、監査等委員会設置会社となっています。取締役の選任および報酬額の決定にあたっては独立社外取締役が過半数を占める指名・報酬委員会で検討を行い、取締役会に議案を上程する体制を構築しています。また、当社の取締役会は、業務に精通し高い専門知識を有する3名の監査等委員でない取締役と、3名の監査等委員である取締役（内、2名は社外取締役）で構成されています。なお、各取締役が特に専門的な知識やスキルを有する分野は下記のとおりです。

氏名	取締役会スキルマトリックス					
	横山 英昭	柴田 太	宇野 之崇	小坂 通美	渡部 有紀	原田 知代子
企業経営・事業戦略	○	○	○			
当社事業・業界経験	○	○	○	○		
営業・マーケティング	○		○			
組織マネジメント・人材育成	○					
財務・会計		○				○
法務・コンプライアンス		○		○	○	
ESG・SDGs		○		○	○	○

※上記一覧表は、各氏の有する全ての知見、経験を表すものではありません。

### コンプライアンスについて

当社は、コンプライアンス体制の確立と推進が、社会からの信頼を得るための不可欠な要件であるとの認識に立ち、取締役及び使用人が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるための企業行動指針を制定しています。当社内各部門の日常業務に関する法令・定款の遵守状況は内部監査室が、取締役の職務執行状況の法令・定款への適合状況については監査等委員が、それぞれ規程に基づき監査を実施しています。さらに常設機関として、管理部門管掌取締役を委員長とし、社外弁護士・常勤監査等委員及び内部監査室長から構成されるコンプライアンス委員会を設置しています。

■ 連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

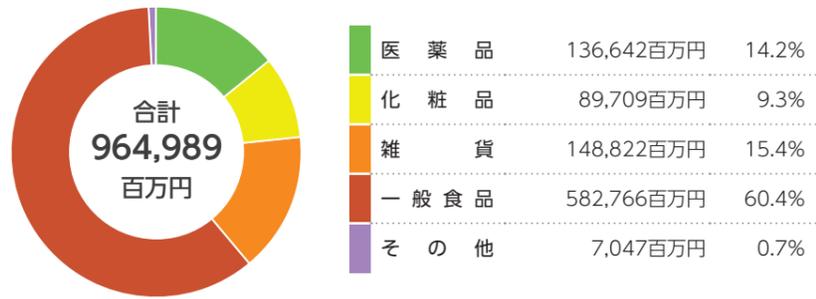
■ 連結財務諸表 (要旨)

Consolidated Financial Statements

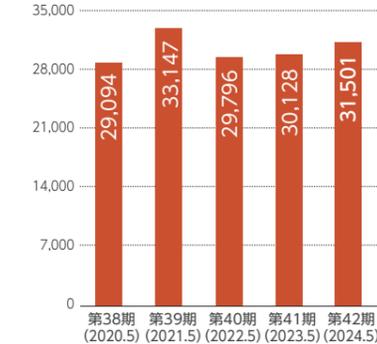
売上高



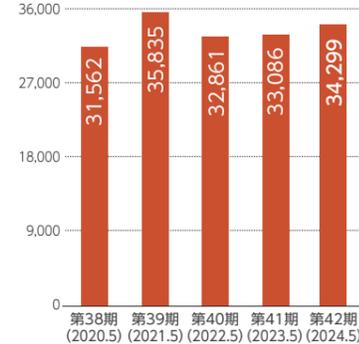
商品区分別売上高構成比 (2024年5月期)



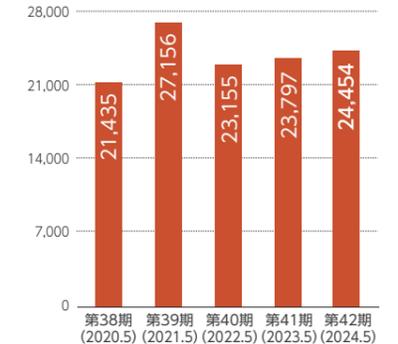
営業利益



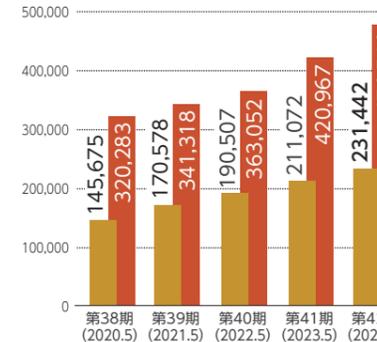
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



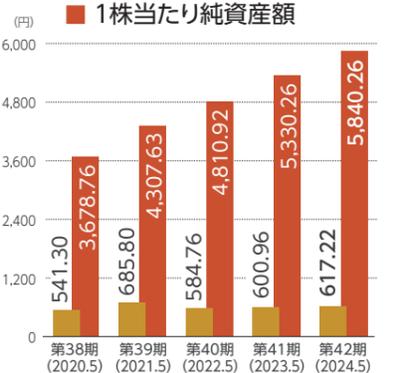
純資産額 総資産額



自己資本比率



1株当たり当期純利益 1株当たり純資産額



※ 当社は2020年6月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年5月期の1株当たり当期純利益および1株当たり純資産額につきましては、遡及修正を行っております。

■ 配当政策

利益配分につきましては、累進配当を基本として株主への安定的・継続的な配当による利益還元を実現すると同時に、経営体質強化のために十分な内部留保を確保し、適切な再投資にあてる方針としております。

2024年5月期の期末配当におきましてはこの方針に基づき、株主の皆様のご支援・ご期待にお応えするために、1株当たり60円の配当を実施しました。これにより、中間配当を含めた1株当たりの年間配当金は前期に比べ20円増配し、120円となりました。

また、2024年9月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合で株式分割を実施する予定であり、次期の配当につきましては、1株につき中間配当32円50銭及び期末配当32円50銭を予定しており、年間では1株につき65円の普通配当を予定しております。

なお、当該株式分割を考慮しない場合の次期の配当につきましては、1株につき中間配当65円及び期末配当65円となり、年間では前年より10円増配し、1株につき130円の普通配当となります。

中間期 期末



※ 当社は2020年6月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年5月期の1株当たり配当金額につきましては、遡及修正を行っております。

■ 連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	当連結会計年度 (2024年5月31日)	前連結会計年度 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産	154,333	137,085
現金及び預金	52,301	45,928
売掛金	637	452
商品	85,821	77,253
貯蔵品	352	226
前払費用	2,568	2,429
未収入金	11,562	9,769
その他	1,089	1,025
固定資産	322,213	283,881
有形固定資産	295,798	259,464
無形固定資産	497	547
投資その他の資産	25,917	23,869
資産合計	476,546	420,967
負債の部		
流動負債	213,229	192,053
買掛金	179,549	161,852
短期借入金	4,581	2,741
リース債務	1,931	1,744
未払金	9,822	10,512
未払費用	8,057	7,272
未払法人税等	5,572	5,031
未払消費税等	2,026	1,244
契約負債	522	519
店舗閉鎖損失引当金	112	223
その他	1,052	909
固定負債	31,874	17,842
長期借入金	23,385	10,018
リース債務	4,166	3,698
退職給付に係る負債	1,751	1,636
資産除去債務	2,141	2,028
その他	429	459
負債合計	245,104	209,895
純資産の部		
株主資本	231,339	211,031
資本金	4,178	4,178
資本剰余金	5,101	4,610
利益剰余金	222,284	202,485
自己株式	△225	△242
その他の包括利益累計額	102	40
その他有価証券評価差額金	1	1
退職給付に係る調整累計額	101	39
純資産合計	231,442	211,072
負債純資産合計	476,546	420,967

■ 連結株主資本等変動計算書

(単位: 百万円)

当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	4,178	4,610	202,485	△242	211,031	1	39	40	211,072
当期変動額									
剰余金の配当			△4,654		△4,654				△4,654
親会社株主に帰属する当期純利益			24,454		24,454				24,454
自己株式の取得				△0	△0				△0
譲渡制限付株式報酬		490		18	509				509
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△0	62	62	62
当期変動額合計		490	19,799	17	20,308	△0	62	62	20,370
当期末残高	4,178	5,101	222,284	△225	231,339	1	101	102	231,442

会社概要

(2024年5月31日現在)

商号	株式会社コスモス薬品
設立	1983年(昭和58年)12月3日
代表者	代表取締役社長 横山 英昭
所在地	福岡市博多区博多駅東二丁目10番1号
資本金	41億7,856万円
従業員数	5,512名(外、平均臨時雇用者数21,756名)
事業内容	医薬品、化粧品、雑貨、食品等の小売業
店舗数	1,490店舗
子会社	株式会社グリーンフラッシュ 株式会社コスモス・コーポレーション

役員

(2024年5月31日現在)

代表取締役社長	横山 英昭
取締役	柴田 太
取締役	宇野 之崇
取締役(監査等委員)	小坂 通美
社外取締役(監査等委員)	渡部 有紀
社外取締役(監査等委員)	原田 知代子

大株主(上位10名)

(2024年5月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社萬緑	15,318	38.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,458	6.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,043	5.16
公益財団法人余慶会	1,500	3.79
管理信託(A036)受託者株式会社SMBC信託銀行	1,200	3.03
管理信託(A037)受託者株式会社SMBC信託銀行	1,026	2.59
管理信託(A038)受託者株式会社SMBC信託銀行	1,025	2.59
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	916	2.31
コスモス薬品従業員持株会	734	1.85
BBH FOR BRIDGE BUILDER INTERNATIONAL EQUITY FUND-BAILLIE GIFFORD	374	0.94

※持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株式状況

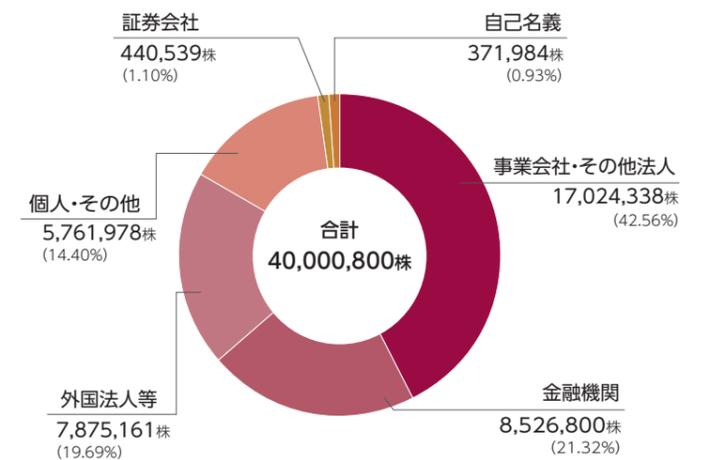
(2024年5月31日現在)

発行可能株式総数	119,200,000株
発行済株式の総数	40,000,800株
株主数	32,200名

※2024年9月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合で株式分割を実施予定です。

所有者別株式分布状況

(2024年5月31日現在)



店舗ネットワーク 2024年5月31日現在

1,490店舗

九州地区

- 福岡県 195店舗
- 佐賀県 39店舗
- 長崎県 47店舗
- 熊本県 107店舗
- 大分県 77店舗
- 宮崎県 77店舗
- 鹿児島県 84店舗

中国地区

- 鳥取県 18店舗
- 島根県 24店舗
- 岡山県 45店舗
- 広島県 53店舗
- 山口県 72店舗

関東地区

- 茨城県 28店舗
- 栃木県 27店舗
- 群馬県 27店舗
- 埼玉県 26店舗
- 千葉県 23店舗
- 東京都 11店舗
- 神奈川県 6店舗

中部地区

- 富山県 19店舗
- 石川県 17店舗
- 福井県 10店舗
- 山梨県 5店舗
- 岐阜県 22店舗
- 静岡県 22店舗
- 愛知県 29店舗
- 三重県 27店舗

関西地区

- 滋賀県 23店舗
- 京都府 20店舗
- 大阪府 46店舗
- 兵庫県 81店舗
- 奈良県 18店舗
- 和歌山県 24店舗

四国地区

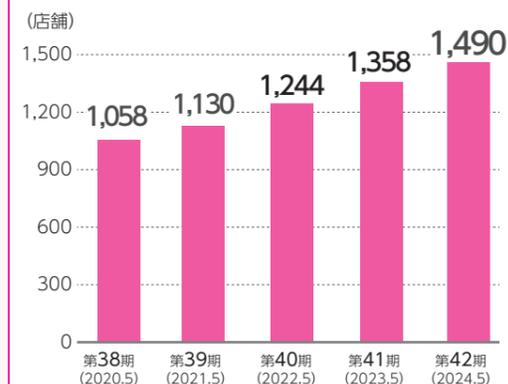
- 徳島県 36店舗
- 香川県 38店舗
- 愛媛県 50店舗
- 高知県 17店舗

Distribution

地区別店舗分布状況

- 関東地区 148店舗
- 中部地区 151店舗
- 関西地区 212店舗
- 中国地区 212店舗
- 四国地区 141店舗
- 九州地区 626店舗

店舗数の推移



株価の推移

